

あ と が き

いつも核データニュースをお読みいただきありがとうございます。今回の内容はいかがでしたでしょうか？ 炉物理国際会議 PHYSOR2008 の報告や CSEWG の活動状況など国際的な情報が豊富なものとなっています。また国内では、JENDL アクチノイドファイル 2008 (JENDL/AC-2008)が公開され利用に供されており、核データ分野の研究が進展し、その成果が着実に普及していることを感じます。

最近の本誌を見ると、核データ評価者と利用者との対話が盛んとなり、共通の課題に対する議論が活発になっていることが伺われます。核データ活性化ワーキンググループの活動にも象徴されるように、今後の核データ研究の方向性を議論することが活発になってきていることは非常に重要であると感じています。

それとは別に、核データニュース編集委員会の活動報告にもありますように、本誌は核データの基礎分野の記事がよく読まれているという統計もあります。これらの情報から、本誌は極めてスペクトルの広い読者に読まれていることがわかります。1966 年から 40 年以上も継続して発行されている本誌は、スペクトルの広い読者に支えられていると言っても過言ではありません。

最近、読者からの投稿が少なくなっていることが少々気になっています。本誌は核データに関する読者の自由な情報交換の場でもあります。読者の皆様からの寄稿を期待しています。

山野 直樹

yamano.n.aa@m.titech.ac.jp

核データニュース編集委員会

中川庸雄（委員長、原子力機構）、井頭政之（東工大）、石川 眞（原子力機構）、
岩本 修（原子力機構）、山野直樹（東工大）、吉田 正（武蔵工大）、渡辺幸信（九大）
[オブザーバ] 喜多尾憲助、[編集] 石橋貞子